松浦議員（自民会）

平成 28 年２月 23 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）グローバルリーダー育成校が外国人留学生に対して果たすべき役割等について

グローバルリーダー育成校は，一定規模の外国人生徒を受け入れ，国際機関と連携しながら，課題発見・解決型のカリキュラムを開発し，多様性の中で，新しい時代に向け，世界で活躍する人材を育成する学校であり，これまでの我が国の教育の流れを大きく変える学校である。

このように,突き抜けた教育により,世界で活躍する人材を育成するのは,本来，国のやるべき業務であり，これまで，東京大学や京都大学をはじめとする高等教育機関で，国がやってきたことである。

それでも県が，このような学校の設置に取り組むというのであれば，国の改革の方向性と足並みを揃え，国との連携，国からの支援が必要である。

諸外国から生徒を集め，社会で活躍する人材を育成するということを考えた時，国内の生徒に対して教育を行う意味と，海外から留学してきた生徒に対して教育を行う意味には，おのずと違いがあるのではないかと思う。

海外から留学してきた生徒への教育には，例えば，その生徒が，将来，自国に帰り，要職に就いて，日本とのパイプができ，　そして，外交・貿易などで，両国の関係を強化するような仕組みを作る役割があると思う。

グローバルリーダー育成校が，海外から留学生を受け入れる理由は，国際社会で活躍する日本人を育成するためだけでなく，海外からの留学生が，帰国後に，我が国や県とのパイプ役になるような役割を担うことも，なくてはならないと思う。

本県は，カナダやオーストラリア，メキシコなどと，教育に関する協定を結んで，おり，こうした地域から，留学生を受け入れるのかも知れないが，もっと広い視野で考える必要がある。

例えば，日本のＯＤＡ拠出金は，アメリカ，イギリス，ドイツ，フランスに次ぐ，世界第５位であり，海外からの留学生募集も，拠出金に見合ってお願いすることができないかと思う。こうした視点からも，国の後押し，支援が必要であると思う。

そこで,グローバルリーダー育成校が外国人留学生に対して果たす役割を,

どのように考え，どのように取り組もうとしているのか，また，国のやるべき業務を肩代わりするとも言えるこの学校の設置に関して，国はどのように考え，国からどのような支援を受けることができると考えているのか，教育長に併せて伺う。

（答）

グローバルリーダー育成校では，学習環境・教育内容を貫くコンセプトとして「多様性の拡大」を掲げており，この実現に向けて，ＯＥＣＤやＡｓｉａ Ｓｏｃｉｅｔｙなどの国際ネットワークを最大限活用し，世界の様々な国から，高い志を持つ多くの留学生を受け入れてまいりたいと考えております。

グローバルリーダー育成校において育成すべき人材像は「グローバルな視野を持ちながら，国際社会・地域社会の持続的な平和と発展を牽引できる人材」であり，このことは，留学生を含めた全ての生徒に共通するものでございます。

この学校では，「全寮制」という環境の下，例えば，

- 地域の方々と協働し，地域が抱える「現実の課題」の解決に取り組む「プロジェクト学習」や
- 本県の魅力を感じられる様々な体験学習

など，本県に強い愛着を持ってもらえるような活動を充実してまいりたいと考えており，その結果，留学生が広島の生徒たちと強い絆を形成し，将来，「世界と広島を結ぶ架け橋」として活躍いただけることが期待されます。

このような取組は，国における教育改革や地方創生の方向性とも軌を一にするものであり，国に対しましても，この学校の意義やコンセプトについてしっかりと説明した上で，財政面・制度面いずれの面でも，様々な支援が得られるよう，積極的に働きかけてまいります。